

1~5の標語

THE MATSUNAGA

→ 地区を区切って、(松永駅周辺として) ついでいるのかな?

動き始めるのは時間がかかる

→ 若い世代の意見がどれだけ反映できているのか?

活性化協議会に若い人が居た方がよいのでは。

ワークショップ: 大学生・高校生が多

未来会議: 若い世代

→ ビジョン(案)について意見を未来会議からもらう

課題があった時に、集う場が

未来会議楽しんで議論ができて

→ 活性化へ

道路整備に向けた方向性

→ 道路の車道を広く

・歩道を広く(ベンチ等)

どちらの意見もあるため

議論を深めたいと考えて

松永駅前線の活用について

「はきもの資料館」

→ まちづくり推進委員会と協力

しながら文化施設として

頑張りたい

本郷

ふゆ柿の担い手

→ 秋だけでも馬路周辺で売ることできないか

05. はきもの資料館の活用について

→ カーブチェン 駐車場の活用

文化施設であると共に皆さんに使っていただくには

→ 行政 まちの協力

・フジ等でお金に頼らない、にぎわいの方法を考えていきたい

・未来会議のメンバーは

「店が出来たら人が来る」と思っているが、難しいのでは

・目標年次 20年

皆さんの意見を反映させたものを敷地内でできたら(老朽化)

また、周辺地域一体的ににぎわいにつなげていけたら

・官民連携

行政・民間それぞれの役割を

フリースペースの運用等

・5つの柱について

否定的な意見はないと思うが、若い担い手に

向けて自分たちがどうバックアップできるか

考えていく必要がある

・小さなコミュニティの積み重ね

→ 「やたこと」に賛同していただける企業、に対する支援

・南と北で違う

北口: 古い店、個人店

・新しいものを何かもあるけど

プラス今ある個人商店のにぎわい

→ 商店同士のつながり

小さいグループ、具体的に動く

馬路周辺を使っているのは

10代・20代(通勤・通学)

03: 懐きのある松永

→ 今あるものとともに、新しいチャレンジを

「馬路北口盛りあげ会」

みたいなものがあれば、若者にも(目的を持って、グループ

→ グループ同士つながれば)

・松高生: 授業(2年、地域探求)

新さと懐き

04: 愛着教育

地域に関わる授業内容

→ 生徒たちが行動に移せるようなカリキュラム

→ 地域行事参加への意識

・ゲタリン 30年間の活動

なかなか、会う機会がなくなっている、継続的に

目標をしっかりと実施、チャレンジを(日曜・明るさ)

・北口、明るさを欲しい

治安

・資料全体、ゴチャゴチャしている

→ あがってきた意見の取捨選択

取組む順位づけ

・松永になにを集中させたいのか

資料内、1つ2つに絞っては

・若い人の意見

現実的に具体的に落とし込んだ意見にして欲しい

・大学生の活用(ほとんどの学生は松永外)

→ 誰がどう動くか(まちに愛着がなくても)にぎわいにつながるシステムづくり

・集中して(場所等)絞って

協議会の目的

来年何が進むのか、どのような

具体的なロードマップが示されて

いない → 議論自体無意味

5つの柱 → 5つの構成要素

行動規範 (ビジョン何から、どう動くか)

・段階的な成長モデル

・できることをできることから

・総力で取組む

・取組む順位づけ

・松永エリアの特徴を

活かしながら

今風にアレンジ

・失敗しても良いからやってみよう

→ ということから大事に(若い人)なっていくと思う

・協議会の意義

→ 基金ができないか!

マイボ: プライベートパブリック

自分の所有しているものを

1公的に使う

・方針を決め、取組んでいく、はきもの資料館(場所提供)

・未来会議からあがってきた意見によって、協議会委員も意識を変える、つながり作り

・松永馬路で何かやってみよう、という動きがあればゲタリンをヒントに、催しも、みんなで作る

・若い人、外部から来る人、発火点となる際、資金に関してお手伝いできたら、経営について

・実際に動く若い人と一緒に汗をかいていく

・「空き店舗を若い人に貸してあげる」みたいな、チャンスを与えられるような

・出てきた意見をおい具体的にできるようにしていきたい

・03に対する意見が多かった